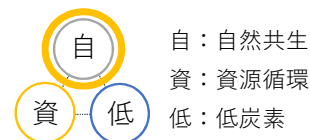


コウノトリ・トキを再び 関東地域で広がる連携



キーワード 地方創生／官民連携／
水辺の保全・再生／環境配慮型農業／
食／ブランド化／観光／健康・美容



フィールド 関東 ・ 里

実施体制 生産者／生産者団体／J A／支援組織として
コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム／
関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会



アクションの目的

水辺の生物多様性を保全するための、広域連携による生物多様性保全の取組と経済が循環する体制の構築。

アクションの背景

かつて水辺の生物多様性が豊かであった関東地方では、生態系サービスを生かした生活が営まれてたものの、都市化とともに失われていった。

そこで、関東地方でエコロジカル・ネットワークの形成と魅力的な地域づくりを目指し、2010年にコウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム^{*1}が、2014年に関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会^{*2}が設立された。

* 1：関東地域の30自治体の首長で構成

* 2：フォーラム代表自治体の首長、千葉県、埼玉県、栃木県及び茨城県並びに国（国土交通省、農林水産省及び環境省等）、民間団体、学識経験者等で構成

アクションの内容

【生物多様性の向上に資する農業によるお米】

コウノトリ・トキを指標種（シンボル）として、参加自治体内で無農薬・無化学肥料や減農薬・化学肥料による栽培、冬期湛水、水田魚道や江の設置など、生物多様性の向上に資する農業を実施。

【ブランド化】

一例として、野田市による玄米黒酢を使った農法の散布費用の負担や、千葉県・いすみ市・J Aいすみが一体となって行った販売プロモーションの結果の一つとしてのJ A L国内線ファーストクラスでの機内食への採用など、産物のブランド化に向け自治体による支援を実施。また、フォーラムの広域性という利点を生かし、他地域で開催されるイベントでのPRを実施。

【産物の活用】

一例として、小中学校の学校給食としての使用やふるさと納税のお礼品として利用。

アクションのポイント

◎環境保全と地域経済の活性化という2つの課題を一体のものとして捉え、同時に解決している。

◎個々の生産者等の取組を支援する組織としてフォーラム及び推進協議会が立ち上げられ、広域連携の利点を生かした地域振興・経済活性化方策の検討、取組が進められている。

アクションの効果

○冬期湛水・水田魚道・江を設置した農地では、コウノトリやトキの餌生物量が増加。

○生物多様性の向上に資する農業によるお米づくりや、水田等で地域住民等により開催される生きもの観察会等を通じて、生物多様性の大切さの認識が広まりつつあるとともに、地域への愛着や誇りの醸成にもつながっている。